

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4592200010		
法人名	有限会社 鶴嶋		
事業所名	グループホーム逍遙亭		
所在地	宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町三ヶ所10547-1		
自己評価作成日	平成26年10月3日	評価結果市町村受理日	平成26年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kan=true&amp;lievsvoId=4592200010-00&amp;PrefCd=45&amp;WarainCd=022">http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kan=true&amp;lievsvoId=4592200010-00&amp;PrefCd=45&amp;WarainCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年10月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「ゆっくり ゆったり いつも一緒」利用者それぞれのペースに合わせるゆったりとした介護「自然環境を生かした暮らし」季節ごとに野菜を栽培したり、近辺に湧水を汲みに行き、お茶などに利用している  
 「リハビリ」暮らしの中の様々な事を生活リハビリとして活用  
 「セラピー」猫を飼っており、利用者と一緒に触れ合う事で、心の安らぎに繋がっている  
 「心温まるホームを目指して」日中は玄関に鍵を掛せず、解放されたまま自由に出入り出来る

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者が、家族気分でいつも一緒に生き生きと暮らせることを願い、利用者が培ってきたライフスタイルを日々の暮らしの中で再現している。四季折々の野菜や果物、山菜などの収穫やその保存作業、また、食材としての使用方法など、長年の経験に裏打ちされた確かな技術を発揮できる支援をしている。運営者の接遇の質に対する意識が高く、職員も同じ気持ちで日々のケアに取り組んでいる。職員への配慮も厚く、資格取得支援や夜勤者の子供がホームから登校できるなど、公私にわたり、安心して働き続けられる職場環境作りに努めている。地域の方々との連携もよく、利用者、職員ともに生き生きと生活している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝引き継ぎの後に、理念と月毎の“言葉”を決めて唱和する事で、意識付けとなっている。「ゆっくりゆったり」の理念のままに、利用者と日々過ごしている。	「ゆっくり ゆったり…」の理念の下、利用者と職員が栗を拾いながら庭掃除する風景や時間をかけ、ゆっくり摂る食事風景に理念が生かされ実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物には出来るだけ参加しており、地域の方がホームの敬老会に来る事を楽しみにされている。近所へ散歩に行き、野菜や山菜を頂くこともあり、いつも有難い気持ちでいる。	日ごろから散歩を心がけており、地域の人たちとふれあう機会が多い。また、ホームの敬老会に、地域の高齢者一人ひとりに案内状を送付するなど、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症介護の拠点としての実践には至っていない。2ヶ月毎の推進会議に、多方面から幅広く参加して貰い、その中で「認知症介護の手助けになれるよう、いつでも相談をお受けします」と伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議資料として活動の写真と毎回、テーマを決めて参加者と共に学びの場としている。多方面から参加して頂いているので、様々な意見もあり、参考とさせて貰っている。	地域の方に幅広く出席を依頼している。欠席者にはホームの現状や会議の内容を送付している。会議では、現状報告と共に、毎回テーマを決め、研修の場や学びの場となり、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町主催のケア会議に毎月参加し、利用者・施設の現状を伝えたりしている。施設長が町の策定委員会のメンバーになっており、介護現場の実情を述べる機会がある。	行政とは良好な関係が構築されている。運営者が町の策定委員の一員であり、また、介護職員の養成講師を務めたり、講演を依頼されるなど、多方面で活動している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当時から玄関は施錠せず、日頃から身体拘束による弊害も学んでおり、ベッド柵を使わなくても済む方法などを工夫している。	拘束の弊害を理解しており、自由な暮らしを支援している。玄関・共用空間であるリビングなどから自由に出入りが可能で、利用者は生き生きと生活している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会の中で、虐待をテーマに話す事があり、通報の義務がある事を周知している。入浴、排泄介助の際など、身体観察を行っているため、何かあればすぐに気づく事は出来る。		

宮崎県五ヶ瀬町 グループホーム逍遙亭

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会のテーマにあげ、職員への周知を行っている。入所後に自分の通帳の管理について不安を訴えられた方がいて、包括の担当ケアマネに相談し、日常生活自立支援事業を利用することになった方がいる。他にも数名の方が利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、時間をかけ説明し、自己負担分の料金については、特に理解を得るようにしている。改訂による変更、加算については文書で説明し、不明な点は個別に説明している。介護用品のレンタルについては必要性を説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置しており、重要事項説明書には、施設長、管理者の携帯番号を記載、苦情受付窓口も明確にさせている。家族会を開催し、交流を深め、意見を出し易いようにしている。	家族会を開催し、家族はもとより利用者の兄弟、孫など多数の参加を促し、交流を深め、意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに留意している。意見箱には、利用者から時折、意見書が入っており、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会で、職員一人ひとりの意見を聞く場を設けている。それ以外にも、個別に管理者と話をする機会もあり、様々な意見を取り入れて貰っている。年2回は、代表者が全体会に出席している。	職員の全体会議の場や日ごろから話し合える機会もあり、出された意見や要望を運営に反映している。職員から運営推進会議の内容を聞きたいとの要望があり、全体会議において報告されるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長自らが職員のスキルアップを勧めており、助言や指導を行い、バックアップ体制が整っている。資格習得者には資格手当の支給があり、励みとなっている。家族の都合(子供が病気など)での有休消化、食事に出掛けてもいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量に差が生じないように、経験・資格に応じた研修への参加を積極的に行い、毎月の全体会の中で研修報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に加入しており、協会主催の研修会に毎回参加、他事業所との交流を持つ機会がある。施設見学の依頼があれば受け入れている。今回は全国グループホーム大会にも参加した(熊本大会)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の施設見学の時から積極的に関わりを持つようにしている。入所後は、ご本人の不安、心配、孤独感などが無いかを聞き取り、あれば職員間で共有している。他の利用者との関係作りにも働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現時点での困り事、不安を聞き取った上で、利用者本人を優先としたホームの方針・施設長の考えを説明し、納得頂いた上での入所契約としている。その後のすれ違う考え方については、その都度、施設長を中心とし、きちんと説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時の状況で、他のサービス事業所の情報を提供している。場合によっては保険者に相談することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの得意な事、持っている力を活かせる場を作り、食材(山菜)の調理法、保存法、野菜の育て方など、沢山の知恵を頂いて活用している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子を写真、文書、電話等で報告をしている。年一回の敬老会・家族会(同時開催)に、主介護者以外の家族にも参加して貰い、日常と違った表情を見て貰っている。また、帰省時の送迎支援も可能と伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時より利用されていた美容室を利用し、事前に予約を入れる事で友人との面会の場にもなっている。行きつけの衣料品店、かかりつけの医療機関、地域の催し物に行く事で、知人、友人と出会われ、気軽に面会に来て頂くようにと伝えている。	配偶者が入院している病院への面会支援や利用者が地域の人たちと日帰り旅行を楽しむための段取りをするなど、なじみの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握しており、食事席の配置、アクティビティ時の組み合わせなど、常に配慮をしている。トラブルが起きた時には、双方に、尊厳を持った介入を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所先に情報提供書を作成し、機会があれば転所先の担当者や家族に近況を聞き、必要な場合は助言をし、家族に承諾を得て面会に出向く。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの方と会話を沢山することで関わりを持ち、表情や会話の中から、その方の思いや希望などを知るように努めている。	声掛けや会話の中で、時にはジェスチャーなども取り入れ、思いや意向の把握に努めている。髪を染めた利用者には、外出の希望をくみ取り外出支援をするなど、本人の思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを利用しており、入所時に家族、本人より聞き取りを行っている。利用開始後もその方が言われた地名、人の名前、事柄などを記録し、家族の面会時に聞いている。その方の生活の場を知る為に、家族に承諾を得て訪問もする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間常に職員が関わっているため、心身の変化、行動リズムなどには誰かが気づく事が出来るので、お互いに情報を共有をしている。一人ひとりの力を見つけるために、生活リハビリ、レクリエーションなど、様々な事を行い、探るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に近況報告を行い、意向の確認を行っている。月一回の職員会議の中で、全職員から意見を出してもらい、計画に取り入れている。また、日々のケアの中で気付いた事は、その都度話し合い、検討している。	家族が要望や意見を言いやすいよう用紙を配布し、記入してもらっている。利用者や会議での職員の意見、また、介護記録などを参考にし、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、その方の言動や行動、場面が細かに書かれており、他の職員が見ても把握しやすくなっており、見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の要望がある時は、シフトにこだわらず、シフト外の職員も支援に参加している。髪染めの希望がある時はホーム内で行い、散髪や買い物の要望がある時は外出支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加したり、地域の方を敬老会に招待し、利用者への理解を深めて頂くようにしている。万が一、離園が起こった場合でも顔を覚えて頂く事で、早期解決に繋げられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医を受診しているが、遠方の場合は入所時点で近医へ変える事に同意を得ている。他科受診の必要がある場合も、事前に承諾を得て、結果報告を行っている。	ほとんどの利用者の家族が遠方にあるため、職員がかかりつけ医へ同行受診をして、日頃の状態や変化を伝え、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや入浴・排泄介助などで気づいた事は記録し、看護職員への報告も行い、適切に受診している。過去に2例の癌が見つかり、2例とも手術を受けられた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたら出来るだけ面会に行き、安心して頂けるような言葉かけをしている。また、医師、看護師より状況を聞き、家族へ報告及び意向確認をしながら、早期退院へ向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ホーム内での医療行為が行えない事を説明した上で、意向の確認をしている。状況に応じ意向も変わってくるので、その都度意向確認は取るようにしている。一つしかない医療機関と相談し、訪問看護を検討したことも過去にある。	契約時に、リビングウィル(尊厳死の宣言書)を書いてもらっているが、生活していく中で、方針の転換には対応できることを告げている。現在、訪問診療を受けている利用者が1名おり、ホームとしてはできる限りの支援をする方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応は全体会の中でも行う事があるが、防火管理者が役場等との調整を行っている。今年8月に町の救急救命士による心肺蘇生法・AED使用の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年11月に夜間想定火災訓練を実施した。地元の消防団にも協力して貰い避難誘導、消防車による放水訓練を実施。今後は、地域住民の方にも参加して頂けるよう、地区代表の方に依頼している。災害時の非常食の備蓄、防空頭巾も居室入口に備えている。	年2回、利用者と共に避難訓練をしている。利用者全員の防災頭巾も用意している。地域の公民館長より訓練参加の申し出もあり、地域との協力体制も構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それまでの生活歴や人格が違う事を念頭に置いた声掛けを行っている。職員間の申し送りではイニシャルを使い、特に排泄に関する事などは隠語を使用している。尊重されていない場合は、職員間で注意し合うようにしている。	日記を毎日記している利用者には、さりげなく今日の出来事を話したり、排せつ時には、肌の露出が少ないようにズボンを立て掛物をしている。排せつ終了時には、時を見計らい、声掛けをするよう配慮し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの意見を尊重し、意志決定が困難な時は、複数の選択肢を用意し、決めて貰っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり思いのままに過ごして頂いており、押し付けによる活動は行っていない。また、起床から就寝まで、その方のペースに合わせており、昼食前に離床して貰っている方もおられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は在宅中から利用されていた美容院へ行かれており、衣類は地元の衣料品店に出向くか、外販に来て貰い、自分で選ばれている。外出時には職員が衣類選択の支援をしており、知人の方々から「若くなったね」と言われる方が殆どである。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、今ある食材で食べたい物、思いつく物を利用者さんと一緒に考え、野菜の下拵え、切り方、盛りつけなどを手伝って貰っている。食べる時は職員も介助をしながら、一緒に食べている。	厨房では職員と利用者が一緒に調理しており、テーブルでは数人で野菜の下ごしらえをしている。食事は利用者とともに会話をしながらゆっくりとり、楽しい食卓となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は常に心掛けている。偏食の激しい方も中にはおられ、調理を工夫する事で、なんとか食べられる事もある。起床時間が遅く、一日に2食の方もいて、補助食品で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守りにて実施しており、一人ひとりの口腔の状態に応じたケア(仕上げ磨きまで)をしている。就寝時には、義歯洗浄剤に付けて、常に清潔保持を心掛けている。		

宮崎県五ヶ瀬町 グループホーム逍遙亭

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	年数を重ね、尿意があるが、パットを使用されている方が増えているが、声掛けにより行って貰っている。車椅子で全介助の方も、トイレへ誘導を行っている。	ポータブルトイレは設置せず、トイレでの排せつを支援している。今年の8月に転倒骨折で入院された利用者が、オムツ使用で退院されたが、最近ではリハビリパンツにパット使用となり、日中はトイレでの排せつに移行している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方が多く便を柔らかくする薬を病院より処方して貰い、排便の状況を確認しながら調整している。運動、水分補給、食物繊維、ヨーグルトの使用を積極的にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	シフトにより、午後からの入浴になっている。一人ひとりの状況に応じ、急遽実施することがあり、浴槽に入れない方は足湯も使っている。入浴の拒否がある方は、タイミングと誘い方に工夫を凝らしている。	できる限り本人の希望に沿い、入浴が楽しいものとなるよう支援している。季節のしょうぶ湯なども取り入れ、楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に休息の時間を取り、各居室で思い思いに過ごされ、それ以外の時間帯でも疲れると居室で過ごされている。安定剤は出来るだけ使用しない方針の下、夜間不眠にはホットミルクを飲んで貰っており、服用されている方も少量を使用中。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書きを記録簿の前面に置いており、いつでも確認できるようにしている。服薬誤りを防止する為に、職員2名でチェックし合い、飲み込み確認をしている。状態の変化や気になる事があれば、主治医に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者から作業の催促があるので、野菜などは収穫したままの状態揃えて貰っている。野山に囲まれた環境にあり、山菜取りにも行っている。また、一人ひとりの力に応じ作業もやって貰っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	鍵をかけない、閉じ込めないという方針の下、いつでも出掛けられるようになっている。帰宅要求があれば、事前に家族に連絡を取り、自宅(生家)までお連れしている。また、家族より外出、外泊の申し出があれば、いつでも可能と伝えている。ホームで年に数回、外食にも出掛けている。	日常的な散歩はもとより、近くのワイナリーへのブドウ狩りや物産センターでの食事など、また、阿蘇山へのドライブなど、多彩な外出支援をしている。11月には椎葉の平家祭りに行く予定にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に、家族へ金銭管理(お小遣い)は施設側で行うことを説明し、承諾を得ており、定期的に出納報告を行っている。自分で所持したい希望があれば、少額ずつ持って貰い、どの程度持たれているかを把握するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方は自分で掛けられ、その他の方はこちらからの用件で掛けた時に話をされている。自分で手紙を書き、やり取りされている方もいるが、家族からの手紙を職員が読み聞かせる方もあり、返信の支援は行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節の花、飾りがあり、アロマや音楽で癒しの空間作りをしている。テラスからは四季折々の風景と、鳥や虫の鳴き声もあり、様々な生活音や炊事場からの匂いなど、五感を刺激し易い環境にあり、来訪者の癒しの場にもなっている。	共用空間には暖炉があり、2~3日前に火入れが終わり、いつでも使用できるようになっている。随所にソファや椅子が置かれ、思いのところで腰かけられるように工夫している。テーブルには利用者が散歩で摘んだ野花を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース、居室にはソファ・椅子が置いてあり、気の合った同士が何気ない会話を楽しまれている。一人になりたい方は、少し離れた場所や居室で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れた家具、仏壇を持って来られ、家族、友人の写真を沢山貼っている。一人ひとり違った雰囲気のある居室で、寝具は状態に応じ、ベッド・畳を使用し、家具などの配置もADLを考慮している。	自宅での様子や残存能力を考慮し、ベッドの高さや椅子の設置を工夫している。家族に囲まれた写真や時計、また、新聞を購読するなど、その人らしい居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	三ヶ所のトイレがあり、居室より近い場所、ADLに応じた場所を使って貰っている。手すりの設置も状況に応じた取り付けをしており、あちこちに椅子を置き、すぐにどこでも座れる環境を作っている。		